

## 審査結果の要旨

(1) 研究の目的に意義や独創性があるか。

本論文は、明治期の幼稚園教育を対象とし、同時期の小学校教育において導入されていたヘルバルト派教育学の考え方に基づく教材としての童話の導入が、どのように影響を及ぼしていたか、また実際の幼稚園の現場における童話の活用のされ方はいかなるものであったか、さらに明治期の西洋童話の移入の状況を踏まえた幼年向けの再話の実態がいかなるものであったかを、文献調査をもとに明らかにしていくものである。一方では教育の制度や理念の変遷を辿り、他方では近代における西洋文学移入の状況を追うという、教育と文学の二つの領域を架橋し、幼稚園教育と童話を結び付けたもので、いずれの領域でも研究を重ねた申請者ならではの独創性がみられる。また、幼稚園教育と小学校教育の連携・接続という着眼は、現代に通じる問題設定としての意義を有する。

(2) 研究の方法は当該学問分野において妥当なものか。

本論文は明治期を対象とした歴史的研究であるため、教育学の分野および文学分野のいずれにおいても、文献調査を基本としている。幼稚園教育に関しては、制度や法律等が時期により変遷していった過程を踏まえつつ、フレーベルやヘルバルトなど西洋の教育的な思想がいかに移入されていたのかを丹念に追い、児童文学に関しては、近代児童文学の生成期における総称としての御伽噺や童話等の用語を確認したうえで、いわゆる西洋童話移入の状況を具体的な翻訳・翻案作品の分析を交えて明らかにしている。さらに各地に残る明治期の幼稚園における保育日誌を発掘し、そこから教育現場における童話受容の一端を明らかにするなど、さまざまな方法により資料調査を行っており、歴史的研究としてまことに妥当なものといえる。

(3) 研究資料やデータの収集と分析が適切になされているか。

本研究では、研究テーマに関わる明治期の制度や法律等の資料、教育学関連の当時の資料、当時の児童文学作品、当時の保育日誌、近年の先行する研究文献など多様な資料を用いている。必要と考えられる範囲での資料収集が行われており、また論述の進行に合わせて適宜、資料や先行研究の引用を行うとともに、参考となるように一覧表を作成するなどしている。とくに西洋童話の移入状況に関しては、関連するイソップ、グリム、アンデルセンについての概括的な一覧を付することで、保育日誌における記載事項からの推察の参考とするなど工夫が施されており、収集・分析ともに適切なものと判断できる。

(4) 研究の考察と結論が妥当であり、学術的な水準に達しているか

本論文では、明治期の幼稚園教育の誕生以降の推移や保育内容の変遷を確認したうえで、当時の幼稚園教育における教材としての童話導入に際して、小学校教育との関連性を持つものであったことを明らかにしている。とくに教材としての童話の定着が促され、童話の教育目的として「美感の形成」が求められた経緯の解明や、幼稚園教育にグリムやアンデルセンが用いられた実態の発掘、そして「幼稚園教育と小学校教育」および「児童文学と教育」の密接なつながりを指摘し

ている。教育学、児童文学の両分野にまたがる論は、各章における手堅い分析の上に成り立っており、それらの考察は適切に展開されている。資料の提示、先行研究への目配りも過不足なく妥当な結論へと導かれており、学位論文にふさわしい学術的な水準に達していると判断できる。

(5) 取得学位にふさわしい意義や成果が認められるか

本論文は、幼稚園教育についての歴史的研究を深めるものであるとともに、幼稚園・小学校の連携・接続という現代的な問題意識も念頭に置いており、さらに児童文学の翻訳研究の観点も付与した独自の論考となっている。幼稚園教育の歴史的研究を継続するとともに、各地に埋もれていた古い貴重な資料発掘の努力を積み重ね、さらにアンデルセンを中心とした児童文学の移入研究の実績もある申請者ならではの教育学と児童文学両分野の総合的な研究成果とあってよいものである。したがって、博士(教育学)の論文として評価できる。